

ミャンマー中部の後期中新世～前期更新世齧歯類化石 Rodents from the upper Miocene to the lower Pleistocene of central Myanmar

西岡 佑一郎^{1*}, 高井 正成¹, タウンタイ², ジンマウンマウンティン³, マウンマウン⁴
NISHIOKA, Yuichiro^{1*}, TAKAI, Masanaru¹, Thaung-Htike², Zin-Maung-Maung-Thein³, Maung-Maung⁴

¹ 京都大学霊長類研究所, ² シュエボ大, ³ マンダレー大, ⁴ マグウェ大

¹Primate Research Institute, Kyoto Univ., ²Shwebo Univ., ³Mandalay Univ., ⁴Magwey Univ.

ミャンマー中部の新第三系イラワジ層(上部中新統 下部更新統)から産出した齧歯類化石(ヤマアラシ科, メクラネズミ科, ネズミ科)について分類学的, 生層序学的な検討をおこなった.

ヤマアラシ科は*Hystrix*属の2種が同定された. 大型かつ半高歯冠型の*Hystrix paukensis*と, 小型かつ高歯冠型の*Hy. cf. brachyura*の2種に分類された. 前者は上部中新統 下部鮮新統にかけて産出した唯一の齧歯類標本で, 上部鮮新統 下部更新統からも発見された. 一方, *Hy. cf. brachyura*は東南アジアに生息する現生種に類似しており, 上部鮮新統 下部更新統からのみ発見された. これは現生の*Hy. brachyura*に繋がる系統と考えられ, 後期鮮新世には既に出現していたことが明らかになった.

メクラネズミ科は上部鮮新統 下部更新統からのみ発見され, ミャンマー中部の現生属*Rhizomys*と*Cannomys*を含むRhizomyinae(タケネズミ亜科)に属する可能性が高い. タケネズミ亜科は下部中新統以降のアジアから知られているグループで, 比較的原始的な系統の*Kanisamys*や*Brachyrhizomys*がインド・パキスタンのシワリク層から産出している. また, 現生属の*Rhizomys*は上部鮮新統以降の中国から発見されており, これらとの関係について議論していく.

ネズミ科は大型種1種, 中型種2種, 小型種1種に分けられ, このうち大型種と中型種の片方がそれぞれ*Hapalomys*, *cf. Ratchaburimys*と同定された. 産出した*Hapalomys*は現在ミャンマー南部に生息する*Ha. longicaudatus*と類似しているが, 上顎第1後臼歯の形態に違いが見られた. また*Ratchaburimys*は絶滅属で, タイの上部鮮新統から下部更新統にかけて産出していることから, ミャンマーとタイの同年代における齧歯類群集の共通性が示唆された. 中型種のもう一方と小型種に関しては, 現在検討中である.

キーワード: 齧歯目, ミャンマー, 新生代, 古生物

Keywords: Rodentia, Myanmar, Neogene, Paleontology